

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和2年度第1回 高松市サンポート地区都市再生検討委員会
開催日時	令和2年7月31日（金） 10時00分～11時45分
開催場所	高松市防災合同庁舎 3階 301会議室
議 題	(1) 委員長の選任について (2) サンポート地区周辺地域の課題等について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	紀伊委員長、高瀬委員、川上委員、今西委員、寺師委員、古川委員、東原委員、水島委員、庄野委員、萬藤委員、新名委員、國方委員、西岡委員、西森委員、藤本委員
オブザーバー	香川県旅客船協会 会長（代理：専務理事）、 高松空港株式会社 常務取締役、 国土交通省四国地方整備局建政部 都市・住宅整備課長、 香川県政策部政策課長、香川県交流推進部交流推進課長、 香川県交流推進部交通政策課長（代理：副課長）、 香川県土木部道路課長、香川県土木部港湾課長
傍聴者	9名（定員10名）
担当課および連絡先	都市整備局都市計画課 087-839-2455

会議の経過及び結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

(1) 委員長の互選、委員長代理の指名及び会議の公開について

高松市サンポート地区都市再生検討委員会設置要綱第5条第2項の規定により、委員の互選により、紀伊委員が委員長に選任された。

委員長は、同要綱第5条第2項及び第4項の規定により、古川委員を副委員長に指名した。

また、委員長から、本日及び今後の会議について、原則、公開とすることが提案され、委員全員がこれを了承した。

会議の経過及び結果

(2) サンポート地区周辺地域の課題等について

資料1：サンポート地区周辺における課題と今後の進め方について、事務局より説明し、次のとおり意見があった。

(紀伊委員長)

本日は、初めての会議なので、それぞれの立場から、質疑や御意見を頂ければと思う。

(水島委員)

サンポートに拠点のあるシンボルタワー開発の立場として、サンポート地区に新県立体育館やJR四国の新駅ビルが近い将来整備されることによって、県内外、海外から多くの来客があると思う。サンポート地区周辺の更なる活性化、魅力づくりの為に、中央商店街を含めた街の回遊性向上が重要な課題であると認識している。サンポート地区に来られた多くの人々に対して、歩行者ルートの整備も含めて、中央商店街へのスムーズな誘導、滞留を促すことで、地域の更なる魅力向上につながるのではないかと思う。

(事務局)

昨年度の6月に中心市街地活性化の基本計画を定めた際に、目標の一つとして、商店街を含め、サンポート地区周辺のまちづくりを重点的に検討していくことを決めた。このような計画をもとにサンポート地区の在り方について意識して進めていく予定である。

(紀伊委員長)

新県立体育館だけでなく、商店街への回遊性も含めて、サンポート地区周辺全体として検討することが必要だと考える。

(高瀬委員)

来訪者が滞留するための施設が整っていないとのことであるが、弊社の方で、高松駅の北側で新しい駅ビル開発を計画しており、サンポート地区を利用される方への滞留・にぎわいが生まれる施設整備を目指している。また、今後検討が進められている各施設について、単独で進めるのではなく、利用しやすくなるように連携して整備していくことが必要である。

(事務局)

回遊性、にぎわいについて、各施設の連携のもと進めることが重要と考えている。関係者で情報共有を進めながら検討してまいりたい。

(紀伊委員長)

サンポート地区周辺は駅、港、体育館等の施設があり、ポテンシャルがあるので、各施設をつなげて地区周辺全体の機能を高めることが必要である。

(古川委員)

回遊性と商店街の連携、商店街との動線整備が必要と考える。1995年にサンポート地区の整備を検討したときに、国土交通省の景観検討委員会の委員を務めていた。当時の委員会では踏み込めなかったが、大切なことは拠点整備だけでなく、商店街との連携をどのように図っていくかということである。当時の申し送り事項になっていることもあり、せっかくの機会なので、サンポート地区だけでなく、商店街との連携も含め、本委員会で進めていければと思う。

(事務局)

事務局としても、そのようなことを重要課題の一つとして認識している。

(紀伊委員長)

商店街は、高松の重要な魅力の一つなので、サンポート地区との連携による効果が発揮できるように検討をお願いします。

(庄野委員)

交通結節点という話が出たが、四国地方整備局では、今年から、地域高規格道路「高松環状道路」の檀紙町から寿町交差点までの区間で、事業化前の計画段階評価の手続に入っている。この、検討を進めていく中で、サンポート地区のまちづくり計画との整合を図っていくことが必要と考えている。

(事務局)

高松環状道路については、ルートが具体的に決まっていない状況ではあるが、サンポート地区周辺のまちづくり計画に直結する話なので整合が取れたものとなるよう留意してまいりたい。

(紀伊委員長)

街中に高規格道路が入ってくることは、インパクトが大きいので十分な議論を重ね、検討していく必要がある。

(東原委員)

MICE という視点では、コンベンション、国際大会、全国会議の誘致に力を入れている。港が近くにぎわいがあることを売りにして誘致につながっているため、瀬戸内の景観を活かした整備をしていただきたい。また、公共交通、歩行者動線について、今後、大規模な会議等が実施されると、近辺から大型バスをチャーターして入ってくることも考えられる。大規模なコンサートでは、チケット付きのバス等がある。大型バス等の乗降場所についても検討した計画としてもらいたい。

(事務局)

ビジネス的な整備から、観光、MICE 等への戦略的なまちづくりに移行しているため、このような要素も取り入れて議論を進めていきたい。

(紀伊委員長)

特に観光が重要と考える。バスの乗降施設についても全国的に役割が見直されているので、当委員会で検討していければと思う。

(西岡委員)

サンポート地区だけでなく、大きなビジョンとして話をしてほしい。基本的なコンセプトを考えてほしい。高松という街が、市民にとって、あるいは、観光客にとって、どのような整備をすれば、どのようなメリットがあるのかを検討する必要がある。これを踏まえ、サンポート地区周辺をどのようにしていくかを話すべきである。サンポート地区は、ばらばらにビルが建っており、魅力が感じられない。一体感を持った開発を考えてほしい。海に面しており、港に魅力があり、海外からの観光客も増えているが、国内からの観光客が圧倒的に多い。新型コロナウイルスの影響で厳しい状況ではあるが、クルーズ船についても今後は2泊3日の短期間の観光が流行ようになる。しかしながら、今は駅、バス、港湾の結節が不便

な状況である。サンポート地区周辺に様々な機能が集積している中で、特にＪＲ高松駅とことடன்高松築港駅の間が不自然に空いていて、傘をさして歩かなければならない。ぜひ、中心市街地も含めた大きな視点で考えてほしい。

(事務局)

ビジョンを共有してまちづくりを進める必要があると感じており、これを踏まえて検討してまいりたい。

(西森委員)

琴電連続立体交差事業について、どのように進んでいるのか。もし、琴電連続立体交差事業を実施する場合にどれぐらいの期間、費用がかかるのか。

(事務局)

現在の高速バスターミナルがある位置に駅ができる計画となっており、都市計画決定されている状況である。平成 22 年に事業は中止となっており、事業が動いていない。今年度から、香川県が、琴電連続立体交差事業の都市計画の在り方を検討していくことにしている。

(紀伊委員長)

サンポート地区周辺のまちづくりの前提になるところなので、併せて検討を進めてほしい。

(川上委員)

ビジョンの話になると思うが、資料 1 の p 2、3 に記載されているように、多くの事業が存在している。これらの事業の整備が個別に進んでしまうと、利便性が悪い空間になってしまう。これだけ事業があるため、検討に際して、関係機関で連携して、意見を調整し、一つずつゆっくと進めることも大事であるとする。全体を一つの構造物として機能できるエリアにすることが大切である。関係機関が連携して、サンポート地区周辺を一体として、整備を進める必要がある。

(紀伊委員長)

委員からの意見もあったが、現状のサンポート地区周辺は、回遊性が良くない状況だと思うので、当委員会でもどう連携をしていくかを考えることが求められていると思う。

オブザーバーの方から意見はあるか。

(四国地方整備局建政部)

歩行者動線が課題と思っている。ＪＲ高松駅とことடன்高松築港駅の乗り継ぎ客や利用者のスムーズな歩行者動線が大きな課題である。また、サンポート地区は海に面しており、風光明媚な場所であり、観光資源があるので、これらも活かしたまちづくりにしてもらえればと思う。

(事務局)

歩行者動線については、後ほど香川県が説明するが、議論の中の重要な部分を占めると考えている。景観等の地区のポテンシャルについても、これまでの既定概念にとらわれず、検討できればと思う。

(香川県旅客船協会)

新型コロナウイルスの影響で利用者が減少しているが、長い期間で見ると、瀬戸内の島々に行く人が増えてきている。瀬戸内の美しさを、地元の人々にも楽しんでもらえるようにな

ってもらいたい。また、点ではなく、面としてサンポート地区周辺の魅力を高めていってもらいたい。

(事務局)

にぎわいの創出、空間形成、配置計画等を含めて検討していきたいと考えている。

(紀伊委員長)

県外や海外の方だけでなく、地元の人々に楽しんでもらえる計画にしてもらえればと思う。

(高松空港株式会社)

観光の拠点として、空港も頑張っているところである。私自身は、地元の間人ではないが、外からの意見として、外国の方や国内の方を含め来訪者が不安になる点として、先が見えないことが考えられる。駅前広場が広くても、JR高松駅からは港が見えず、また、ことでん高松築港駅も見えない等、場所的には良いところにあるが見渡せないところが不便である。物理的に無理な部分もあるが、着色等のデザインで示せれば心理的に分かりやすくなるので、視認性も重要だと考える。

(事務局)

施設整備と併せてサイン計画も反映して都市再生整備計画をまとめていければと考えている。

(紀伊委員長)

10年前になるが、最初にサンポート地区周辺に来た時に不安を感じた。デザインも重要であるので、検討してもらえればと思う。

副委員長の古川委員から、改めて意見はあるか。

(古川委員)

せっかくの機会であるため、拠点の整備というよりも、全体の整備として、ランドデザイン、方向性、このエリアがどうあるべきかを議論する良いチャンスだと思うので、この点を考慮して進めてほしい。

(事務局)

承知した。

資料2：新香川県立体育館基本設計概要について、香川県新県立体育館整備推進課長の新名委員より説明し、また、新県立体育館整備に伴う周辺関連基礎調査の歩行者対策案や自動車対策案の取りまとめの内容について、香川県都市計画課長の萬藤委員より説明し、次のとおり意見があった。

(西岡委員)

収容人員1万人に対して確保する駐車場が100台というのはおかしいのではないかと考えるのであれば、サンポート地区周辺で広い駐車場の整備が必要と考える。高規格道路についても、寿町交差点にアクセスさせるのはおかしいと考える。海側にアクセスさせることで混雑を回避することができるのではないかと考える。今ある条件に固執しない方がよいと思う。また、イベントがないときの発想も必要である。イベントがないときに近隣住民が集える場

所にしなければ利用が減少してしまう。サンポート地区の魅力的なレストランとしてミケイラが取り上げられるが、景観を活かした海が見えるレストランを入れるなど、新県立体育館の客席の下等にデッキをつくるなどして、イベントがないときにも県民に利用してもらい、駐車場も有効に活用できる施設を、もっと考えるべきだと思う。

(萬藤委員)

駐車場整備、高規格道路について、現況に対して、抜本的に考える必要があるという意見についても、事務局共々検討していく。イベント以外でも、広く県民に利用される有用な施設になるように考えることが重要である。

(川上委員)

新県立体育館への動線整備について、前提条件となる琴電連続立体交差事業を委員会で検討していくということであるが、琴電連続立体交差事業は平成6年から始まって平成15年に協議再開、17年に再評価、22年に中止となっている。ことでん高松築港駅は暫定の駅の状態である。存続、廃止のどちらになっても、暫定の駅を今後どのようにしていくかを一から考える必要があり、動線もそれを踏まえて検討してほしい。国道30号に面する出入口は狭い状況である。できるだけ早く琴電連続立体交差事業を決着してもらおうとともに、どちらにしてもこれを解消する必要がある。

(紀伊委員長)

歩行者対策案の中で施設整備を伴う案があり、ことでん高松築港駅が現状の場所にあるという事が前提となっているが、琴電連続立体交差事業如何によっては見直すことも検討する必要があると考える。サンポート地区周辺の整備においては、琴電連続立体交差事業の存廃が大きく影響する。県においては、琴電連続立体交差事業の検討についても、遅れがないように進めてもらいたい。

(庄野委員)

歩行者、自動車の動線検討が進められているようだが、交差点改良やキャノピー設置等の計画にあたっては、各道路管理者とよく調整しながら、しっかりとした計画となるようにしていければと考えている。

(古川委員)

丸亀町商店街だけで3万人が来ており、ある意味、市民の意見の集約場所のような場所である。市民はJR高松駅へことでん高松築港駅が乗り入れするのではないかと考えているようである。議論をするうえで教えてほしいが、これから実施される新県立体育館の建設、JR四国の新駅ビル、地域高規格道路、琴電連続立体交差事業について、琴電連続立体交差事業は中止になったと思うが、今回記載しているということは、今後、もう一度、この議論をするという方向なのか。

(萬藤委員)

琴電連続立体交差事業について、10年間休止の状態が続いている。都市計画上はこのような位置付けが続いているため記載している。社会経済情勢、交通情勢等、以前から大きく変わっている状況があるため、県としては、都市計画そのものの在り方について、時間をいっただいて進めていこうとしている。今年度からということで、しばらく検討が続く予定である。どのような方向性になるかはこれからである。

(古川委員)

せっかくの機会なので、サンポート地区周辺の課題として、検討して行ってほしい。サンポート地区周辺の話せず、歩行者動線だけで議論してもあまり意味がないと思う。まずは、サンポート地区周辺のビジョンを固める必要があるのではないと思う。

(紀伊委員長)

琴電連続立体交差事業により、この地区の開発や整備が進まない状況があったため、この委員会でも議論していく必要がある。将来の駅をどうするかが、このエリアの回遊性にもつながる。整備に応じて公共交通の利用者が決まり、自動車の利用者も決まり、駐車場台数等が決まるという流れがあるので、将来の駅をどうするかについては、公共交通利用者の数にも影響するため、琴電連続立体交差事業と齟齬がないように進めてほしい。

(寺師委員)

駐車場不足に対して、公共交通やタクシー等で対処すると考えられているが、そもそも道路が混雑しており、タクシー乗り場までたどり着けないという現状がある。イベント等で地下駐車場から一気に自動車が出てきた場合に、タクシープールの前面道路に出入口があることから渋滞し、タクシーがたどり着けない状況である。同様に、高速バスもバスプールに入れない事態が起きているかと思う。昨年の花火大会のときにタクシー協会として、タクシープールまで行けないことから、ジャンボタクシーをJR高松駅から瓦町駅までピストンで輸送すること考えたが、台風で中止となった。このように、代替輸送で対応することも検討してほしい。また、根本的に渋滞を解消する方策として、交番の南側の駐車場の出入口を封鎖するという案も考えられる。公共交通が場合によっては、利用できない現状があることを知ってほしい。

(紀伊委員長)

施設整備だけでは、イベント時の渋滞等の問題を防ぐことはできないので、交通需要対策の考えが必要である。イベント時の交通対策について、駐車場をサンポート地区に設けるのが良いのか、様々な組み合わせを考える必要があるので、適切な組み合わせをこの委員会で検討を進めていただきたい。

(今西委員)

花火大会等のイベント時には、バスの運行に困難をきたしている。新県立体育館の整備によって、タクシー業界と同じ状況になると考えている。バスの利用者は増えることになるかもしれないが、安全・安心な運行が第一であるため、動線の在り方、規制の在り方に十分配慮してほしい。

(新名委員)

新県立体育館の整備で確保する100台の駐車場は日常利用を想定している。新県立体育館に大規模な駐車場を設けない理由としては、サンポート地区が交通の結節点であり、公共交通機関が発達しているためである。駐車場があるとイベント時に車で来る人が多くなるが、道路が限られており、また、バスターミナル等の施設もあり、公共交通機関や緊急車両等の運行に支障が出るなど問題が発生する。したがって、公共交通機関で来てもらうことを前提にしており、車では来ないようにしてもらうため、大規模イベントの来場者用の駐車場は考えていない。大規模イベント時には、主催者側にその旨を発信してもらうことを検討してい

る。バスが多い場合は、新県立体育館の南側に、B2街区という空いたスペースがあるので、今でもサンポート地区でイベントがある場合は、主催者側用として使っており、その場所を利用することも検討している。このようなことを前提に、新県立体育館のことだけでなく、サンポート全体として検討いただければと考えている。

(紀伊委員長)

車だとスペースが限られてしまうため、他のモードでの来訪も踏まえて検討する必要がある。

オブザーバーの方から意見はあるか。

(香川県旅客船協会)

フェリーターミナルの近くの玉藻交差点等で日頃から渋滞が発生している。玉藻交差点から県民ホール方面への左折が特に顕著である。新県立体育館でのイベント開催により、大変な渋滞が発生すると思っている。人と車の動線が交差しないような抜本的な対策をしてほしい。例えば、JR高松駅やことぞん高松築港駅から地下道で新県立体育館に行くことができるような整備方法もあるのではないかと考えている。ぜひ、検討してほしい。

(萬藤委員)

玉藻交差点付近の歩行者対策案としては、デッキや地下道についても検討したが、玉藻公園の景観や史跡保護の観点から、提示の案からは外れている。今後、頂いた御意見を踏まえ、分かりやすく安全で快適な歩行空間について事務局共々検討していく。

(紀伊委員長)

全体を通して、意見はあるか。

(西岡委員)

事務局にお願いしたい。議論の中で、全体を議論しないものは議論してほしくない。例えば、駐車場について、新県立体育館として整備している、していないではなく、全体として捉える必要がある。現実問題として、確実に自動車での来訪が増えることが見えているので、駐車場を考えてほしい。車が来る前提で議論すべきだと考えている。

(紀伊委員長)

委員会としては、基本的に全体として考えていく。検討すべきことを明確にすることは大事であるが、様々な観点があるので、色々な意見を頂き、議論を進めていければと考えている。

(3) その他について

事務局より次回委員会の開催時期は、改めて案内することを提案し、委員全員が了承とした。

その他、委員から特に意見はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以上